

**会員事業所景況実態調査令和2年4月～令和2年6月分集計結果**  
**調査依頼数:536 回答数87 回答割合:16.2%**

令和2年度2回目の会員事業所景況実態調査の調査結果について下記のとおりに報告いたします。  
 調査結果については、今後の要望・提言活動や経営相談に活用してまいります。  
 ご回答いただいた事業所の皆様、お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。

**★DI値とは**

各項目について、増加・好転(仕入単価:下落、従業員:不足)と回答した事業所の割合から  
 減少・悪化(仕入単価:上昇、従業員:過剰)と回答した事業所の割合を減じた数値。  
 ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で  
 景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

**【質問 A】 前年同時期と比較した4月～6月の景況**

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	8	19	59	86	▲ 59.3	▲ 64.6	5.3
	採算	7	30	49	86	▲ 48.8	▲ 63.5	14.7
	仕入単価	7	53	25	85	▲ 21.2	▲ 30.8	9.6
	従業員	15	60	11	86	4.7	▲ 13.7	▲ 18.4
	業況	3	31	52	86	▲ 57.0	▲ 63.9	6.9
	資金繰り	2	54	30	86	▲ 32.6	▲ 42.1	9.5
建設・建築業	売上	2	8	11	21	▲ 42.9	▲ 50.0	7.1
	採算	2	10	9	21	▲ 33.3	▲ 50.0	16.7
	仕入単価	0	15	6	21	▲ 28.6	▲ 22.7	▲ 5.9
	従業員	5	15	1	21	19.0	▲ 4.5	▲ 23.5
	業況	1	14	6	21	▲ 23.8	▲ 45.5	21.7
	資金繰り	1	14	6	21	▲ 23.8	▲ 31.8	8
製造業	売上	3	2	16	21	▲ 61.9	▲ 84.2	22.3
	採算	1	5	15	21	▲ 66.7	▲ 84.2	17.5
	仕入単価	2	12	7	21	▲ 23.8	▲ 72.2	48.4
	従業員	2	14	5	21	▲ 14.3	▲ 31.6	▲ 17.3
	業況	0	7	14	21	▲ 66.7	▲ 94.7	28
	資金繰り	0	11	10	21	▲ 47.6	▲ 47.4	▲ 0.2
卸・小売業	売上	2	1	11	14	▲ 64.3	▲ 57.1	▲ 7.2
	採算	2	4	8	14	▲ 42.9	▲ 61.9	19
	仕入単価	2	11	1	14	7.1	▲ 15.8	22.9
	従業員	3	10	1	14	14.3	▲ 19.0	▲ 33.3
	業況	1	1	12	14	▲ 78.6	▲ 61.9	▲ 16.7
	資金繰り	1	9	4	14	▲ 21.4	▲ 40.0	18.6
飲食・サービス業	売上	1	3	9	13	▲ 61.5	▲ 70.0	8.5
	採算	1	5	7	13	▲ 46.2	▲ 65.0	18.8
	仕入単価	2	5	6	13	▲ 30.8	▲ 21.1	▲ 9.7
	従業員	4	7	2	13	15.4	▲ 5.3	▲ 20.7
	業況	1	2	10	13	▲ 69.2	▲ 52.4	▲ 16.8
	資金繰り	0	8	5	13	▲ 38.5	▲ 40.0	1.5
不動産・その他	売上	0	5	12	17	▲ 70.6	▲ 64.3	▲ 6.3
	採算	1	6	10	17	▲ 52.9	▲ 57.1	4.2
	仕入単価	1	10	5	16	▲ 25.0	▲ 23.1	▲ 1.9
	従業員	1	14	2	17	▲ 5.9	▲ 7.1	1.2
	業況	0	7	10	17	▲ 58.8	▲ 71.4	12.6
	資金繰り	0	12	5	17	▲ 29.4	▲ 57.1	27.7

**(全体)**

従業員以外は改善しており、特に採算は10ポイント以上改善している。しかしながら、依然として売上、業況は▲50ポイント以上、採算は▲50ポイント近くと高くなっている。一方、従業員は10ポイント以上悪化し、プラスに転じ人手不足となっている。

**(建設・建築業)**

仕入単価、従業員以外は改善しており、特に採算、業況は20ポイント近く改善している。しかしながら、依然として売上は▲40ポイント以上と高くなっている。一方、従業員はプラスに転じ人手不足となっている。

**(製造業)**

従業員、資金繰り以外は大幅に改善しており、特に仕入単価は50ポイント近くと顕著である。しかしながら、依然として売上、採算、業況は▲60ポイント以上と高くなっている。一方、従業員は悪化はしているものの、依然としてマイナスとなっており人手過剰が続いている。資金繰りはほぼ変わらないが、依然として▲50ポイント近くと高くなっている。

**(卸・小売業)**

採算、仕入単価、資金繰りは20ポイント前後改善しており、特に仕入単価はプラスに転じている。また、採算は依然として▲40ポイント以上と高くなっている。一方、売上、従業員、業況は悪化しているが、特に従業員は30ポイント以上悪化し、プラスに転じ人手不足となっている。また、売上は▲60ポイント以上、業況は▲80ポイント近くとさらに高くなっている。

**(飲食・サービス業)**

売上、採算、資金繰りは改善しているが、依然として売上は▲60ポイント以上、採算は▲50ポイント近くと高くなっている。一方、仕入単価、従業員、業況はDI値が悪化しており、従業員ではプラスに転じ人手不足となっている。また、業況は20ポイント近く悪化し、▲70ポイント近くとさらに高くなっている。

(不動産・その他)

売上、仕入単価以外は改善している。特に資金繰りは30ポイント近く改善している。しかしながら、依然として採算は▲50ポイント以上、業況は▲60ポイント近くと非常に高くなっている。一方、売上、仕入単価はわずかであるが悪化しており、売上は▲70ポイント以上とさらに高くなっている。

【質問 A】 6月と比較した7月～9月の先行き見通しについて

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	8	25	54	87	▲ 52.9	▲ 78.9	26
	採算	6	37	44	87	▲ 43.7	▲ 76.8	33.1
	仕入単価	3	57	26	86	▲ 26.7	▲ 22.0	▲ 4.7
	従業員	13	61	13	87	0.0	▲ 18.3	▲ 18.3
	業況	5	30	52	87	▲ 54.0	▲ 82.1	28.1
	資金繰り	3	57	27	87	▲ 27.6	▲ 58.9	31.3
建設・建築業	売上	0	9	12	21	▲ 57.1	▲ 72.7	15.6
	採算	0	9	12	21	▲ 57.1	▲ 72.7	15.6
	仕入単価	0	17	4	21	▲ 19.0	▲ 27.3	8.3
	従業員	3	15	3	21	0.0	0.0	0
	業況	1	9	11	21	▲ 47.6	▲ 68.2	20.6
	資金繰り	0	13	8	21	▲ 38.1	▲ 63.6	25.5
製造業	売上	5	2	14	21	▲ 42.9	▲ 100	57.1
	採算	3	7	11	21	▲ 38.1	▲ 94.7	56.6
	仕入単価	1	12	8	21	▲ 33.3	▲ 22.2	▲ 11.1
	従業員	0	17	4	21	▲ 19.0	▲ 42.1	▲ 23.1
	業況	2	6	13	21	▲ 52.4	▲ 100.0	47.6
	資金繰り	1	14	6	21	▲ 23.8	▲ 68.4	44.6
卸・小売業	売上	1	3	10	14	▲ 64.3	▲ 61.9	▲ 2.4
	採算	2	5	7	14	▲ 35.7	▲ 66.7	31
	仕入単価	0	11	3	14	▲ 21.4	▲ 20.0	▲ 1.4
	従業員	4	8	2	14	14.3	▲ 33.3	▲ 47.6
	業況	1	2	11	14	▲ 71.4	▲ 85.7	14.3
	資金繰り	1	8	5	14	▲ 28.6	▲ 52.4	23.8
飲食・サービス業	売上	1	6	7	14	▲ 42.9	▲ 84.2	41.3
	採算	1	8	5	14	▲ 28.6	▲ 73.7	45.1
	仕入単価	2	7	5	14	▲ 21.4	▲ 11.1	▲ 10.3
	従業員	4	8	2	14	14.3	▲ 11.1	▲ 25.4
	業況	1	5	8	14	▲ 50.0	▲ 78.9	28.9
	資金繰り	1	9	4	14	▲ 21.4	▲ 47.4	26
不動産・その他	売上	1	5	11	17	▲ 58.8	▲ 78.6	19.8
	採算	0	8	9	17	▲ 52.9	▲ 78.6	25.7
	仕入単価	0	10	6	16	▲ 37.5	▲ 30.8	▲ 6.7
	従業員	2	13	2	17	0.0	0.0	0
	業況	0	8	9	17	▲ 52.9	▲ 78.6	18.1
	資金繰り	0	13	4	17	▲ 23.5	▲ 64.3	40.8

(全体)

仕入単価、従業員以外は30ポイント近くと大幅に改善する見通しであるが、依然として、売上、業況は▲50ポイント以上、採算は▲40ポイント以上と非常に高い状況が続く見通しである。一方、従業員では人手不足と人手過剰が同数となる0ポイントとなる見通しである。

(建設・建築業)

従業員以外は改善する見通しである。売上、採算は15ポイント以上、業況、資金繰りは20ポイント以上と大幅に改善する見通しだが、依然として、売上、採算は▲60ポイント近く、業況は▲50ポイント近くと高い状況が続く見通しである。従業員は増減はなく人手不足と人手過剰が同数となる0ポイントとなる見通しである。

(製造業)

売上・採算では50ポイント以上、業況、資金繰りは40ポイント以上と大きく改善する見通しである。しかしながら、依然として業況は▲50ポイント以上、売上、採算は▲40ポイント前後と高い状況が続く見通しである。一方、仕入単価は10ポイント以上、従業員は20ポイント以上悪化する見通しである。従業員は依然としてマイナスのままで人手過剰が続いている。

(卸・小売業)

採算、業況、資金繰りは改善する見通しであり、特に採算は30ポイント以上、資金繰りは20ポイント以上と大幅に改善する見通しである。また業況は依然として▲70ポイント近くと非常に高い状況が続く見通しである。一方、売上、採算、従業員は悪化する見通しであり、特に従業員は50ポイント近く悪化し、プラスに転じ人手不足となる見通しである。また、売上は依然として▲60ポイント以上と高い状況が続く見通しである。

(飲食・サービス業)

売上、採算は40ポイント以上、業況、資金繰りは25ポイント以上と大幅に改善する見通しである。しかしながら、依然として業況は▲50ポイント以上、売上は▲40ポイント以上と高い状況が続く見通しである。一方、仕入単価、従業員は悪化する見通しであり、特に従業員は25ポイント以上悪化し、プラスに転じ人手不足となる見通しである。

(不動産・その他)

仕入単価以外は大幅に改善する見通しである。特に資金繰りは40ポイント以上と顕著である。しかしながら、依然として売上、採算、業況は▲50ポイント以上と高い状況が続く見通しである。従業員は増減はなく人手不足と人手過剰が同数となる0ポイントとなる見通しである。